

区連会 資料 4-1

旭区社協発第 171 号
令和 5 年 7 月 18 日

各自治会町内会長 様
広報ご担当者 様

社会福祉法人
横浜市旭区社会福祉協議会
会長 渡邊 多喜男

広報紙「あさひいきいき宣言 (No. 113)」の配布について (ご依頼)

時下 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より、本会事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび本会広報紙「あさひいきいき宣言(旭区社協だより)」113号を発行しましたので送付いたします。

つきましては、ご多忙のところ恐縮ではございますが広報よこはま旭区版(8月号)とともに地区内全世帯へ配布していただきますよう、お願い申し上げます。

今後も地域のみなさまに“いきいき”としていただけるような広報紙を目指し、発行していきますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆送付部数 広報よこはま旭区版(8月号)と同部数

担当：千葉・梅崎

電話：392-1123

FAX：392-0222

旭区社協 information

令和4年度 事業報告

基本目標 1 安心して自分らしく生活ができるための
包括的支援体制の充実

福祉の総合相談窓口として、地域住民から寄せられる相談を受け止め、必要な支援につなぎました。長引くコロナ禍の中、生活困窮世帯への生活福祉資金特別貸付の申請、返還猶予・免除の申請支援や食料提供を通じた相談支援を行いました。また、支えあえる地域づくりを目指し、ボランティア活動などの地域活動支援に取り組みました。

基本目標 2 多様な主体による支え合いの
地域づくりの推進

相談支援から見えてくる課題や、一人ひとりの困りごとを解決する仕組みづくりを地域で展開するために、地区社協の活動支援、各種助成事業を行いました。また、身近な地域での困りごとの早期発見・支援につなげるため、地区社協を中心とした見守りの仕組みづくり「ご近所ほっこり活動」を推進しました。

基本目標 3 地域福祉保健の取組が広がる
仕掛けづくりの推進

学校への福祉教育の推進や、寄付の窓口である善意銀行の運営を通し、一人ひとりの福祉意識の醸成に取り組みました。特に高額寄付を原資に「あさひ子どもの未来応援基金」を創設しました。また、民生委員児童委員や地区社協等と連携し、ひとり親家庭や生活にお困りの方への食料等無料頒布会・相談会を実施しました。



ひとり親家庭等向け旭区産野菜無料頒布会の様子▲

令和4年度 共同募金報告



皆様から多くの募金を
いただきました。
今年も皆さまのご支援を
よろしくお願いいたします。

(募金は任意です。)

善意銀行 善意銀行に寄付いただいた方々
ありがとうございました。 (順不同・敬称略)
令和5年1月~5月

(金品寄付) 伊志嶺 朝之/荻窪 邦昭/
歌声喫茶オアシス(今宿地域ケアプラザ)/佐々 徳雄/
小川 竹子/旭区舞踊協会/日検川崎OB会/匿名 4件

(物品寄付) ハッ橋 政彦/西山 勉/明るい社会づくり運動旭区協議会/
神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部/
一般社団法人バンクフォースマイルズ/匿名 1件

善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品を預かりし、区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆様の善意を広げていく事業のことです。

令和4年度決算報告

当期収入合計	140,653,986円
当期支出合計	118,549,270円
前期末支払資金残高	21,331,876円
当期末支払資金残高	43,436,592円

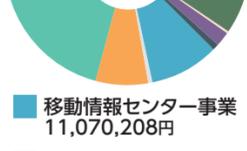
受託金
34,389,909円



寄付金
69,343,629円



福祉基金
54,250,412円



移動情報センター事業
11,070,208円

地域福祉推進事業
645,568円

あさひふれあい助成金
配分事業
8,126,000円

- 会費・賛助会費 6,721,610円
- 補助金 10,019,520円
- 共同募金配分金 10,523,169円
- 事業収入 727,990円
- その他 5,814,733円
- サービス区分間繰入金 3,113,426円

- 法人運営 12,889,065円
- ボランティアセンター事業 106,513円
- 地区社協活動支援事業 950,000円
- 福祉保健活動拠点運営 16,099,303円
- 共同募金配分事業 10,901,505円
- 善意銀行運営 450,349円
- 送迎サービス事業 2,332,207円
- 権利擁護事業 728,140円

令和4年度共同募金寄付金総額
18,546,274円
・赤い羽根募金.....15,054,984円
・年末たすけあい募金.....5,570,810円

募金は区内の施設整備費や福祉保健活動団体の活動費、旭区社会福祉協議会の事業費等に活用されます。(赤い羽根募金には他市区町村からの配分2,079,520円を含みます。)

- 〈赤い羽根募金〉**
- 区内施設の設備工事等957万円
 - 区内社会福祉団体の事業費90万円
 - 区社会福祉協議会の事業費458万円

- 〈年末たすけあい募金〉**
- 区内19地区社会福祉協議会の事業費449万円
 - 福祉団体助成金58万円
 - 生活困窮者支援事業費(食料支援等)50万円

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
https://www.palletasahi.jp/ 旭区社協



旭区社協だより No. 113

令和5年8月1日発行

あさひ 共に支えられ 生きていく

いきいき宣言



この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

https://www.palletasahi.jp/ 旭区社協

地域共生社会を目指して
共に支えられ 生きていく
横浜市旭区社会福祉協議会

自分らしくいられる居場所を みんなでつくる

令和5年3月8日、公益社団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員の澤岡詩野さんを招いて講座「これからも仲間と一緒に活動していくために～自分らしくいられる『居場所』をめざして～」を開催しました。(令和4年度ボランティア・市民活動者向け講座より)

ボランティアの高齢化、担い手の減少などの理由からボランティア活動の継続に課題がある中、長引く新型コロナウイルス感染症は、地域活動の縮小や中断など大きな影響をもたらしました。これまで一緒に活動していた参加者の体調や環境にも変化があり、これから自分たちの「居場所(活動)」を継続していくためにはどうしたらよいか、というテーマでご講演いただきました。

澤岡さんは、今だからこそ求められる「場」や「つながり」の姿とは、**地域活動はこうあるべきだ**という考え方を捨てた「多様性」が必要と話されました。また、「いつもの誰か」と「ゆるやか」につながる。年に一回だって、1回10分だって来てくれたらいい。来られないなら行ってもいい。できることを誰かが引き出して自信につなげてくれる。時には、気にして、声を掛けてくれる。活動で大事なことは、**助けてあげる・助けてもらうではなく、参加者とボランティアの垣根を越えて、一人ひとりのできることを見つけだして地域で生かす場をつくる循環を生み出すことが大切**とまとめられました。

旭区社協は、地域で活動する皆さんが活動の多様性や新しい可能性を見つけ、これまでの活動が広がるようなお手伝いをしたいと思っています。

今号では、「垣根を越えた地域での取組」をご紹介します。



旭区社協の Twitter はじめました!
http://twitter.com/asasha1123



アカウント名は **横浜市旭区社会福祉協議会**
旭区社協では令和3年10月1日よりTwitterを開始しました。各職員が身近な話題や福祉に関する情報などをつぶやいていますので、ぜひフォローしてください!



topics 1 **みんなで作り上げるサロン お茶べりサロン さんさん**
 二俣川ニュータウン地区
 【毎月第4水曜日】11:00~14:00

「お茶べりサロン さんさん」は、高齢者から子育て世代まで地域の方が気軽に自由に、そしてボランティアも無理なく楽しく交流できるサロンです。

運営の中心はボランティアの皆さんですが、参加者の発案でイベントが実施されたり、地域の方にはテーブルに飾るお花を用意していただいたりしています。また、お昼ご飯を食べるのにお茶以外のものがあつたら、という皆さんの声を取り上げ、昼食時にみそ汁を提供したところ大変好評で現在も継続しています。

参加者とボランティアを区別することなく、みんながアイデアを出しあって、みんながやりたいことをやる、「みんなで作り上げるサロン」をモットーに、お互いに見守りあえたり、支えあえたりするサロンを目指しています。



みんなで体操



参加者発案の着付け教室。ボランティアも熱心に聞き入っています。

ボランティアさんも参加者として体操したり、皆さんと一緒に弁当を食べたりしています。私たちのサロンはできる人ができることをしながら、誰もが楽しく過ごせるサロンとなっています。



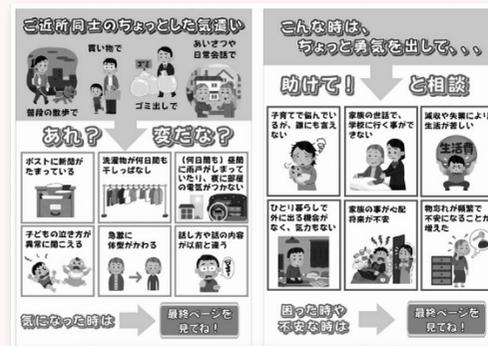
お茶べりサロン さんさん 代表 宮寺 良孝さん

topics 3 **ご近所同士のちょっとした気遣いで「困りごと」を解決**
 希望が丘地区

希望が丘地区では、困りごとを抱える人たちを地域で支えるにはどうしたらよいかを検討するため、地区社協、自治会町内会、民生委員、老人クラブ等の関係団体による「見守り活動連絡会」を設置しています。

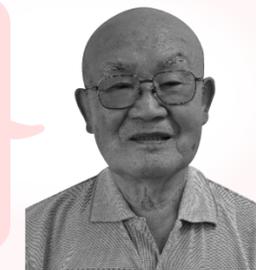
連絡会では、「困っている人は、自らが支援機関に相談するのは難しい」「ご近所の人たちは、異変に気づいても、どこに知らせたらよいかわからない」などの意見があげられました。

そこで、「困りごとを抱える人も地域住民も、悩みごとや困りごとをひとりで抱えず、まずは隣近所や自治会長などの身近な人、地域ケアプラザに相談しましょう」というメッセージを届けるため、案内チラシを作成し全戸配布しました。**お互いに気かけあい、声をかけあえる地域**を目指して活動しています。



案内チラシの中間には、ご近所同士での「ちょっとした気遣い」のポイントがイラストでわかりやすく解説されています。

日常生活やご近所づきあいの中で、ちょっと意識すると「あれ？変だな？」と異変に気づくことがあります。無理せずできる「ちょっとした気遣い」を地域に広げていきたいと思っています。

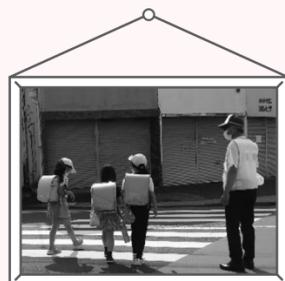


希望が丘中地区社協/希望が丘連自治会 会長 安藤 眞弘さん

topics 2 **登下校の見守り活動を通した顔の見える関係づくり**
 希望が丘南地区

希望が丘南地区では、善部小学校の登下校時間に合わせて、地域のシニア世代や保護者等のボランティアが自宅付近で声かけ・見守り活動を行っています。短時間、身近な場所でできるボランティア活動のため、120名ものメンバーが活動しています。

活動を続けている中で、児童とボランティアが「黄色いベストさん、おはようございます!」と互いに挨拶を交わし顔見知りになっていきます。児童から「いつも挨拶してくれる〇〇さんが今日はいないけど、体調が悪いのかな?」と聞かれることもあるそうです。**日常的な挨拶をきっかけに、互いに見守りあう関係づくり**が進められています。



最初は挨拶をするだけだった児童も、顔見知りになると学校でのできごとを話してくれるようになったそうです。

「無理をせずできる範囲でできることを」を大切に活動しています。見守り活動では、ボランティア同士の情報交換を行っています。民生委員、主任児童委員とも連携し、気になることは共有するようにしています。



児童安全見守りボランティア 代表 河野 法雄さん

支えあう地域創りは「顔なじみになる」位の関係を多種多様な方法でジワジワと増やしていくことから始まります。案内チラシの配布は輪を拡げていくうえで大きな一歩といえます。お互いのアイデアを出しあってサロンを創りあげる、たくさんのオトナができる範囲で子どもの登下校の見守りに参加すること、これらすべてが困っていることを早くに気付ける、困ったことを「実はね…」と呟ける、顔なじみの関係づくりの土壌になっているともいえます。そうなんです、顔なじみの関係性を拡げていくために、必ずしも新しいなにかを興す必要はないのです。まずは、あなたの地域のタネを改めて探すことから始めてみませんか。(公益社団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員 澤岡詩野)



地域の見守り・支えあい活動助成金のご案内

身近な地域でのふれあい・交流を通じて、住民同士のゆるやかなつながりづくりや見守りあいを進め、社会的孤立に陥ることを防ぐために実施する活動への助成を行っています。詳細は、本会HPをご確認ください。(URL: <https://palletasahi.jp/jigyuu/volunteer/joseikin.html>)

